

ヤマブドウの可能性探る ヤマブドウ産業化へ発表会

ヤマブドウを加工し、消費拡大を図ろうと久慈地方ヤマブドウ産業化研究会が3月22日、活動報告会を市内のホテルで開催しました。関係者など約30人が参加しました。発表会では、ヤマブドウ入りのハヤシライスや草木染め＝写真＝、小久慈焼などが発表されました。参加者からは「ヤマブドウならではの苦味がほしい」「色が独特で風合いがあってよい」など様々な意見が交わされました。発表作品は今後検討を重ねて商品化を目指します。



▶「おやつも勉強も一緒！」—みんな仲良く、ここで成長していきます
▼雨の中、テープカットが行われ、山市長や児童代表の小向瞳さん（久慈湊小5年）たちにより幕が開けられました



新施設大事に使います 久慈湊学童ひまわりクラブ施設開所式

「久慈湊学童ひまわりクラブ」の新施設開所式が4月1日、同父母の会（門前雅紀会長）や児童など約50人が参加して同所で行われました。山内隆文市長が、「お兄さん、お姉さんの言うことをよく聞いて、事故のないよう大切にしてください」とあいさつ。児童代表の大上聖司君（久慈湊小6年）が「下の子たちの面倒を見ながら大事に使います」とお礼。テープカットが行われました。

学童保育所は、保護者が仕事などで家にいない児童を対象に預かる施設。今まであった施設に変わり新しい施設を久慈湊小学校の敷地内に新設したもので、和室とホール、キッチンが整備されています。保育所では3人の指導員が児童たちを見守ります。舛森大地君（久慈湊小6年）は「前より広がってうれしい。大事に使いたい」と笑顔を広げていました。

2人で立てることが一番 平成18年度合同金婚式

平成18年度合同金婚式（同実行委主催）が3月21日、市内のホテルで開催されました。市内に居住する金婚（結婚50年）以上の夫婦が対象で、17組が参加しました。坂本治雄・同実行委員長が「これからも素晴らしいハーモニーを作ってください」とお祝いしました。出席者を代表して、小屋畑勝造さん＝写真＝（77・長内町）、ナミさん（同）夫妻が「一番の喜びは2人でこの場に立てること。これからも仲良く1日1日を積み重ねたい」と謝辞を述べました。



久慈管内で初の担い手法人 （株）フラップ設立祝賀会



参加者たちは設立祝いととも、成功を誓っていました

久慈管内で初めての集落営農の担い手法人となる（株）フラップ（田中正七代表取締役、資本金60万円）の設立祝賀会が4月5日、大川目営農組合員など約40人が参加して大川目公民館で開かれました。フラップは営農組合員4人で組織。本年度から国が進める品目横断的経営安定対策の認定農業者となって、営農組合員などの農作業の受託や生産物の販売を行い、安定した品質と生産を目指します。将来的には、農村レストランなどの経営を「会社の夢」として掲げます。
※品目横断的経営安定対策＝コメ、ムギやダイズなどの品目の生産について、国が認定した農業者などに限定して支援する対策

観光客を受け入れ33年 国民宿舎北限閣・閉館セレモニー

国民宿舎北限閣で3月31日、同所の閉館セレモニーが行われました。侍浜振興協議会長や行政連絡区長、北限閣の従業員など約20人が参加しました。工藤孝男助役が「今まで当地方の観光拠点としての役割を担ってきたが、本日をもって閉館することになった。これまでの地域や関係者の努力に感謝する」とあいさつ。関係者らによって、ロビーに掲げた看板が取り外され、33年の歴史に幕が下ろされました。

北限閣は昭和48年にオープン。絶景が望める宿として人気を博してきましたが、近年は利用客が減少し、平成18年度末で廃止が決定していました。これまでの通算利用客は61万5800人でした。



「北限閣」の看板を外す関係者

1人でも多く救うために 「どうする災害時医療」講演

久慈消防本部では3月27日～28日、防災センターで「どうする災害時医療」と題して講演を行いました。講師は、県立久慈病院の河本一彦医師。講演には、久慈管内の救命士や消防隊員、警察署員など約100人が参加。DMAT（大地震などの災害時に被災地に駆けつけ、救急治療を行う訓練を受けた医療チームのこと）のあり方や災害時により多くの命を救うために負傷者の選別を行う「トリアージ」について学びました。河本医師は「限られた医療資源の中、最大多数の傷病者の救護に最善を尽くすことが大切。地域でまとまることで災害対応ができる。講演を定期的に関き、地域で対策をとることの重要性を広めたい」と訴えました。



トリアージ訓練を行う参加者

防犯は地域の目配りから 春の地域安全運動

久慈市防犯協会連合会（上神田正巳会長）が主催する「春の地域安全運動」が4月6日～15日まで開催され、6日に久慈ショッピングセンターで啓発チラシの配布が行われました。＝写真＝同会員など約20人が参加しました。運動は、児童を狙った事件や事故の地域ぐるみでの防止、外出するときのカギ掛けなどを呼び掛けるもの。上神田会長は「防犯活動は地域の目配りが必要。新入学の時期を迎え、より一層呼び掛けを強化したい」と気を引き締めていました。

